

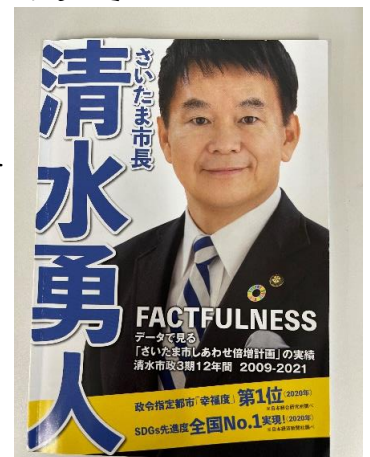
# たんちょう通信

～ 第96号 ～



丹羽孝直

こんにちは、丹頂ガスの丹羽です。いつも「たんちょう通信」をお読みくださり誠にありがとうございます。今年4月に「青年塾リーダーセミナー」で「さいたま市」へ行ってきました。今回は「さいたま市長」の「清水勇人さん」の市政の取り組みを聴講して参りました。清水市長は、今年で4期/4年目になります。失礼ながら「さいたま」と聞くと「ダサイたま」のイメージがりましたが、清水市長のお話を聴いていると、そのような言葉は遠い昔の言葉であると気が付きました。現在の「さいたま市」は、数々の全国NO.1を誇る政令都市に成長しております。清水市長が特に力を入れていることは「子どもの教育」です。「子どもが輝く絆で結ばれたまちを実現」をビジョンに掲げて、学校と家庭と地域が連携を取って「人づくり」に取り組まれております。その核となる取り組みが「放課後チャレンジスクール」です。私はこの「取り組み」に「さいたま市」の「全国NO.1」になった手がかりがあると思いました。「放課後チャレンジスクール」は予備校でもなく、塾でもありません。すべて「地域住民」によるボランティア活動です。「さいたま市」が掲げる「コミュニティの再生」と「地域住民の絆づくり」を目的として取り組まれております。もちろん初めは、「地域住民の方々」に理解していただくのに時間が掛かったと仰っていました。清水市長の「熱い想い」と「根気」で「ボランティア活動」を続けていくうちに少しずつ「児童」も参加してよかった、「保護者」も活動が充実しているなど声が上がり、「地域の方々」もボランティア活動をすることにやりがいを感じて、お互いに「相乗効果」が生まれてきました。現在は17万人以上の児童生徒が参加して、5万人のボランティアがチャレンジスクールで活動しております。また、「さいたま市」は外国人の居住者も多く、「コミュニティの再生」と「地域住民の絆づくり」は大切な課題の一つでもありました。「地域住民」自ら「絆づくり」に取り組まれたことが「良い結果」に繋がったと思います。市長自ら、度々学校に足を運び子ども達と一緒に「給食」を食べたり、「地域の方」を招いて、子供たちとの交流を図っております。「学校給食」の食材も「地域の農産物」を積極的に取り入れております。このような取り組みからも「あたたかい人間関係」が出来ているように思われます。住みやすい・住み続けたい街ともに全国でもトップクラスで、幸福度ランキングでは、政令都市NO.1を誇ります。更に「さいたま市」は「教育に関する7つの項目」で「全国1位を実現」しております。「子供の教育」はただ塾へ行かすだけではなく、むしろ「子供たちと関わる」ことが大切であると改めて学ばせていただきました。弊社は、今年の夏休みに「県地区」の「学童保育所」で「防災」のレクチャーのご依頼を賜りました。是非、この機会に子供たちと楽しく、笑顔が絶えない学びを提供して参りたいです。引き続きどうぞよろしく願い申し上げます。感謝





たんちょう隊の公式LINEはこちら!



住まいのちょっとしたお困りごとの解決方法をお知らせしています。



公式インスタグラムはこちら!

たんちょう隊の活動や日常の様子を投稿しています。フォローをお願いします!



TANCHOGAS

## <お詫びと訂正>

先月の通信で、簡易トイレの作り方を掲載しましたが、訂正箇所がございます。作り方の説明で、「カゴを用意します。少し、しっかり目のプラスチック製がいいです。」とお伝えしましたが、「カゴ」という表現は間違いです。県地区女性防災クローバーさんから、「カゴとは一切言ってないよ。カゴはつぶれると危ないから使わないでね。」とご指摘を頂きました。正しくはご自宅のトイレを災害用トイレとしてお使いください。この度は、間違えた情報をお伝えしてしまったことに、クローバーさん、並びにお読み頂いている皆様に、深くお詫び申し上げます。



かわいなつさ 河合菜摘

皆さま こんにちは、入社8年目の河合菜摘です。

3年前の誕生日、母は私に「何か食べたいものある?」と聞いてくれました。私は、小さい頃のアルバムを見たことがある「キティちゃんの形をしたポテトサラダ」の写真思い出しました。その時のことはもう覚えていませんが、母が3歳の誕生日に作ってくれた誕生日メニューです。写真を指差して、「これかわいい!また食べたいなあ」と言うと、母は「いいよ、じゃあ一緒に作ろう!」と書いてくれました。母も作り方を思い出しながら

のようでしたが、キティちゃんを再現しようと、一緒に料理をすることが楽しかったです。しかし、見た目にとどめて作るのは、顔のバランスや表面をなめらかに整えるために、普通のポテトサラダを作るよりも

2倍、3倍の時間がかかり大変でした。昔、母は幼い私を喜ばせようと、この手間のかかる工程をひとりで作ってくれたのかなと思うと、嬉しくなりました。家族みんなが食卓を囲む時間が、私は大好きです。母と一緒に作った料理は、いつもより美味しかったです。今回私の話は最後になります。いつもお読み頂き、ありがとうございます!

